

## 開拓地の半世紀と

### 私の苗木作り

高見 幸雄（雨乞）

#### \* 楽しみながら仕事を

現在の経営面積は、借地も入れて約2ヘクタールで苗木の販売高は過去5年間の平均で850万円以上になりました。労働の面でも植え付け、掘取り出荷時には3人から4人のパートを雇い入れ作業を行っていたが機械化と農薬等による省力で今日では、どの家でも夫婦2人だけで作業を行い、その上夏場は労働力に余裕が出来、バイトに出る人も現れてきました。苗木の出来が悪かった時代はあれやこれやとやっってはみるがいづもだめで、苦勞はつきませんでした。肉体的にも多忙でありました。しかし半年後か一年後にその結果を見ることが楽しみでしたし、胸の高鳴りの様なものを感じたものでした。私が、今日あるのも30数年前、初めて苗木作りを始めた年に、苗木で一番多忙な2月、3月頃、岡山県の林業試験場に2ヶ月の研修に行かないかとの

話があり、父は私が農業未経験者であることから、行くことを勧めてくれました。私は家が一番忙しい時期で、パートのおばさん2、3人にも来てもらっている状況なのでためらっていましたが、父に

「目先の利益にこだわるんではない。永い目で見なければ」と言われ、我に返り研修を受けることにしました。あの時の研修が現在の苗木作りの場で具体的に参考になったというものはなにかもしれませんが、父の言葉と共に私の貴重な財産であると思つています。私は、仕事は楽しみな

がらやろう、金儲けばかり考えると毎日が楽しくないし、良い仕事もできない、その結果、お金にもならない。仕事を楽しんでこそ良い仕事が出来、そして必ず誰かがその仕事を評価してくれる、と常々考えております。後輩の組合員や妻に言えば、それは仕事ではなく趣味であつて、とてもそんな気持ちにはなれない、との言葉が返つてきます。また、人は私に「あんたも早くに父親を亡くし、弟妹は多く

雨乞の山の上で苦勞したな」と言つてくれます。もちろん、人並みの苦勞はありましたが、「おまえは弱い人間だから」と、天から与えられた試練に立ち向かったという気はしません。総じて言えば、自分の人生を楽しんで生きてきた思いがします。

造林面積の減少で苗木の需要は今後どんどん少なくなる、同時に多種目の苗木が必要なた代になりました。生産組合としては新たな模索の必要に迫られています。現在、仲間3人と新たな挑戦を行つています。平成10年から山椒の育苗について試行錯誤を重ねて

いるところですが、下関市の木の芽部会から話が持ち出されたようですが、安定した需要や、一年勝負、他の苗づくりと労働力の競合が無い等利点はあるが当面の課題として山椒の育苗技術が無く発芽率が悪い、先進地視察の受け入れ先もままならないのが現状で手探りの状態であります。課題は山積していますが、是非とも安定技術を確立し新しい分野を取り入れた経営の近代化を図りたいと考えております。再挑戦すると共にやりがいのある苗木作り農家になりたいと思ひます。

現在、雨乞地区には9世帯33人が生活しています。都会の人から見れば雨乞は、人里離れたへんぴな所と思われる

が、鳥のさえずり、きれいな星空、虫たちの声、草木の香り等大自然の中にどっぷりと浸かり自然を満喫しており、住み心地の良い所だと自負しています。私たちが子供や都会に住んでいる兄弟が気兼ね無く、雨乞に帰り大自然のなかで心身ともにリフレッシュできる拠点を作りたいと考えています。

雨乞でも経営形態が変わりつつあります。弟が洋ランの栽培に取り組んでおり、洋ランを作り始めてからはや2年が経ち、仕事も軌道に乗りつつあります。また、最近ではイチゴの高設栽培に取り組み若者も育つてきています。また、山椒の育苗が契機となり

下関市と雨乞、いや日置町との交流が行われ地域の活性化に一石が投げられたらと考えるところです。20年余り前、当時はなかなか出来なかつた「2年生の檜苗を作るのが私の目標だ」と言つて開墾に精を出された村岡先輩。耕耘機がようやく買えた時代に将来はトラクターの時代になるからと圃場整備に取り組んだり、また、ビニールハウスなんか見ることの出来なかつた時代に、先では挿し木で杉苗を作る時代になるからと自動灌水

の鉄骨ハウスを造り、志半ばで亡くなった古賀先輩。販売や外交面で組合を支えていた高橋先輩。あなた方の開拓者精神が今も私たちを救つてくれていると思つております。今日では、道路も良くなり、引き揚げ船の着いた仙崎へは30分もかからずに行くことが出来ます。先輩達が命を懸けて残してくれた開拓者魂からは随分遠くなった気がしてなりません。今から私達の敵しくも新たな開拓時代が始まるのだと、先輩方の魂を心に刻み、常に21世紀を見つめパートナーの妻と生涯現役で生きていきたいと思ひます。（おわり）

広報へき4月号から5回にわたつて掲載いたしました高見さんの作品も、今回をもつて終わりとなります。

私は、この作品に触れることにより、何も無いところから生活を始めることの大変さ、一つのこと懸命に取り組み続ける強い精神など、現代の便利な生活を送っていると知ることができない大切なことを教えていただきました。皆さんにとつても得ることが多かったのではないのでしょうか。

雨乞の山の上で苦勞したな」と言つてくれます。もちろん、人並みの苦勞はありましたが、「おまえは弱い人間だから」と、天から与えられた試練に立ち向かったという気はしません。総じて言えば、自分の人生を楽しんで生きてきた思いがします。

広報へき4月号から5回にわたつて掲載いたしました高見さんの作品も、今回をもつて終わりとなります。

私は、この作品に触れることにより、何も無いところから生活を始めることの大変さ、一つのこと懸命に取り組み続ける強い精神など、現代の便利な生活を送っていると知ることができない大切なことを教えていただきました。皆さんにとつても得ることが多かったのではないのでしょうか。